



Open Doors, Open Worlds

—英語で新しい世界へのトビラを開けてみよう！—

English teacher: Sakaue Wataru

◆アメリカの留学生に日本文化を英語で紹介しました◆

「日本文化を10個答えましょう」—そう言われて、1分以内に答えられますか？

6月12日、カリフォルニア州立大学から約15名の留学生が本学園を訪れ、ステージごとに交流しました。今回は3rdステージでの交流の様子をお伝えします。

この写真を見てください。何の準備をしているでしょう？

…そうです！留学生に習字を教える準備をしているところ

です。硯は^{すずり}ink stone, 文鎮は^{ぶんちん}paperweight というのはですね。

3rdステージでは8・9年生合同チームを8チームづくり、けんだま、こま、ポップカルチャー、紙風船、習字、着物、福笑い、坊主めくりの日本文化の紹介や体験を考えました。



3rdステージのすごいところは、準備をたったの50分で済ませたことです。しかも、ほとんど自分たちで説明（もちろん英語）や段取りを考えて行ったので驚きました。普段の授業で学んでいることを活用して、「自立的」な学習ができる。まさに、1st・2ndステージのお手本となるような姿でした。

交流を終えた8・9年生の振り返りの一部を紹介します。どんなことに気付きますか？

- 新たな発見は、カタコトな英語でも十分伝わることです。単語を並べてみて、一生懸命に伝えると、会話が成立することを知りました。今回、うまく話せなかったことよりも、会話ができて楽しかった方に印象が残っています。（9年・男子）
- 昼休みに一緒に手遊びみたいなもの（アルプス一万尺みたいな）をできて楽しかった。
世界にもこういう手遊び的なものがあると知って親近感が湧いた。着物は日本人も似合うけど、海外の人が着たらまた違う雰囲気が出ていてとても良かった。（9年・女子）
- 「どんなことでも良いから試してみることの大切さ」を知ることができました。今まで「しっかりと英語を話さないと」という気持ちが強く、自分から進んで会話をすることがありませんでしたが、その考えが変わる体験になりました。（9年女子）
- ジェスチャーを使うと英語が通じやすくなることがわかりました。英語の授業では使わないような単語もたくさん使ったし、敬語が使えないから命令みたいになってしまったけど、留学生が優しく接してくれたので楽しかったです。（8年・女子）
- 英語の授業で学習したことを試せる貴重な時間だったけど、いざ本番になると、なかなかうまく質問したり、説明したりできなかった。しかし、交流を通して英語が今後社会に出る上で必要になってくることが、たくさんあることに気づいた。（8年・男子）

「英語がすき！」という人も、「苦手だなあ」と思っている人も、海外の人やケーレブ先生と交流するときは、勇気を出して話しかけてみてください。それが、自分の世界を広げる **First Step（第一歩）** になるかもしれません。それでは、Have a nice summer vacation!